

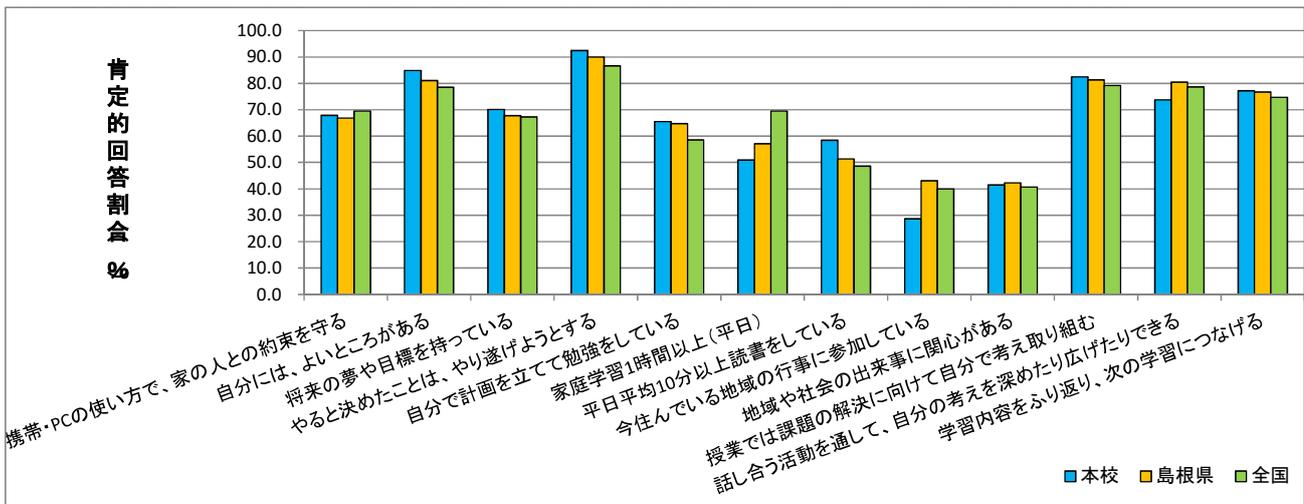
(1) 学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策(・)
国語	○スピーチの表現、文章の意図、引用を用いた意見文など表現に関する問題の正答率が高かった。 ●書写に関する問題の正答率が低かった。	・書写の授業の際に、実際に書かれた字を基にポイントの確認と添削を行う。
数学	○全ての問題形式において正答率は全国平均並みかまたは上回っており、特に選択式問題については高い。 ○計算で求める問題、確率の意味理解は正答率が高い。 ●グラフから必要な情報を読み取る問題の正答率が低い。 ●数学的な表現を用いて説明する問題の正答率が低い。	・タブレットドリルを効果的に活用し、既習事項の復習を取り入れ、各領域の基礎・基本の定着を図る。 ・ペアやグループでの学習活動場面を意図的に設定し、自分の考え方を筋道を立てて伝え合う力を高める。
理科	○「エネルギー」「粒子」を柱とする領域において実験結果に対する思考・判断・表現に関する問題の正答率が全国に比べて高かった。 ●「天気」に関する問題の正答率が全体的に低かった。	・連続した気象データから天気の変化の規則性を見つけ出したり、身近な気象現象について科学的な根拠に基づいて説明したりする場面で、グループ活動を効果的に取り入れる。

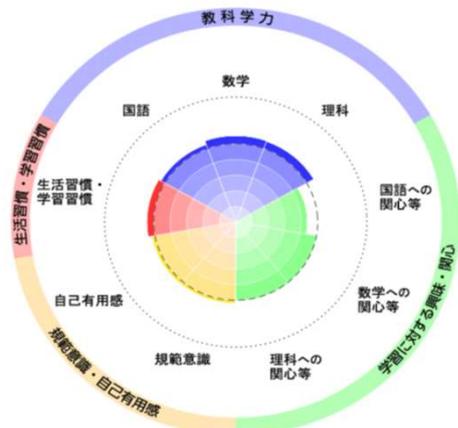
(2) 生徒質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策(・)
質問紙	○基本的な生活習慣が安定している。 ○自尊心が高い。 ○自分で課題や計画を立て学習できる生徒が多い。 ●家庭学習が習慣化していない生徒が多い。 ●地域や学校の中で人と関わる活動が減っている。	・キャリア教育と結びつけながら内的動機付けを行うことにより家庭学習の習慣化を図る。 ・協働できる場を意図的に設定し、人と関わりながら活動する場を増やす。

(3) 生徒質問紙調査結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4) 学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・道徳教育の重点項目を「B-(9)相互理解、寛容」「C-(15)よりよい学校生活、集団生活の充実」とし、協働しながら学校生活を向上させていくことを目指す。  
・学習理解の支援としてICTを効果的に活用する。

【受検者数】

171 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。